

平成18年度認定 ふくいの伝統的民家



福井県

目 次

1	「ふくい伝統的民家」認定制度について	-----	p1
2	認定基準	-----	p1
3	認定状況	-----	p2
4	認定民家	-----	p3
1)	典型的な町家型	-----	p 3
2)	典型的な農家型	-----	p17
3)	茅葺き民家	-----	p30
4)	かぐら建ての民家	-----	p32
5)	妻入りうだつの民家	-----	p34
6)	その他地域固有の形態を持つ民家	-----	p35
5	用語解説	-----	p38

1 「ふくいの伝統的民家」認定制度について

福井県では、平成18年4月1日より「福井県伝統的民家の保存および活用の推進に関する条例」を施行し、この条例に基づく施策の一つとして、「ふくいの伝統的民家」認定制度を開始しました。

この「ふくいの伝統的民家」認定制度は、所有者の申請に基づき県が認定を行うもので、伝統的民家に誇りを持って住み続けていただき、後の世代に継承していただくことを目的としています。

2 認定基準

県内のそれぞれの地域で受け継がれてきた「妻壁を柱と梁で格子状とした漆喰塗の切妻屋根の農家型の民家」や「格子戸等町家の伝統的意匠を基調とした切妻屋根の町家型の民家」等、外観が典型的な伝統的民家の基準を満たす木造建物または県の審査委員会が地域固有の伝統的民家と認めたもの。

典型的な伝統的民家の基準

〔典型的な農家型民家の基準〕



〔典型的な町家型民家の基準〕



3 認定状況

平成18年度 「ふくいの伝統的民家」認定件数 130件

(内 訳)

市町別	計	年代別			形態別					
		明治 以前	大正 ~1945	1945 以降	典型的 町家型	典型的 農家型	茅葺き	かぐら 建て	妻入り うだつ	その他
福井市	19	6	6	7	1	17				1
敦賀市	2	2			2					
小浜市	11	8	3		8	3				
大野市	7	5	2		4	1				2
勝山市	11	7	3	1	9	2				
鯖江市	10	6	2	2	1	8	1			
あわら市										
越前市	22	11	7	4	8	7	1		3	3
坂井市	15	11	3	1	7	1		5		2
永平寺町	1	1				1				
池田町	1			1		1				
南越前町	7	7			3		4			
越前町	10	6	2	2	1	9				
美浜町										
高浜町	13	10	1	2	8	4				1
おおい町										
若狭町	1			1			1			
合 計	130	80	29	21	52	54	7	5	3	9

4 認定民家

1) 典型的な町家型

〔坂井市〕 坂井市三国町には、通りに沿って片流れ2階建ての前下屋を持つ「かぐら建て」という特有の形態を持つ妻入りの町家がある。また、「かぐら建て」の町家とともに、他の地域と同様な切妻造、平入りあるいは妻入りの町家も多く、優れた町並み景観が見られる。	
1 坂井市三国町北本町 江戸末期 	2階の高さが低い「つし2階」で、古い町家の形態を持つ。 前面の下屋庇は板葺きで、^{こうがい}筭があり、幕板（当地では「さがり」または「さがりかけ」と呼ぶ）が見られる。庇の上の看板も景観上大きな役割を果たしている。
2 坂井市三国町北本町 明治初期 	近年の改修により伝統的外観がよみがえった。 2階は、前方半間を室内にとりこんだ増築がみられるが、格子窓をつけるなど全体的に伝統的な意匠が採り入れられている。
3 坂井市三国町北本町 昭和初期 	軒裏は出桁^{だしげた}を腕木で受け、船^{せうがい}舳造とし、2階の階高は高い。 下屋庇は起りのついた銅板葺で、幕板（「さがり」）が設けられている。 袖壁は、下方の腕木に繰^くり^{がた}形が付き、見付面は銅板巻き装飾されている。1階の格子戸や出格子も良好である。
4 坂井市三国町山王 昭和初期 	三国には、明治後期から昭和初期にかけて造られた妻入り入母屋造の民家が30棟ほど残っている。当家もそのひとつで、角地に立ち、建設時の雰囲気をよく残している。

78 坂井市三国町新保 江戸末期 	この地区には、妻入り切妻造桟瓦葺の町家が軒を連ねている。 この民家は、主屋が間口4間で、前面は、間口いっぱい桟瓦葺の下屋庇を設け、幕板を付けている。 2階の中央に格子窓を設けている。
79 坂井市三国町新保 明治初期 	主屋は間口4間半で、棟を笏谷石とし、桟瓦葺の下屋庇を間口いっぱい設けている。 1階前面は、伝統的な出格子が設けられている。
80 坂井市三国町新保 明治初期 	間口3間の主屋の側面に半間の下屋を持つ。 屋根は赤瓦の桟瓦葺き、棟は笏谷石である。前面2階は、中央に格子付きの窓を持ち、伝統的な意匠となっている。
〔福井市〕 福井市に残る伝統的町家は少ないが、木田銀座通りのように、昭和初期の町家が数多く見られる地区もある。	
5 福井市安原町 明治初期 	江戸時代末期の大火の後の建築と言われている。2階や屋根など外観は改造されているが、1階の玄関先や内部には、建設当時の様子がよく残されている。

〔大野市〕

大野市は、現在も城下町の町割を良く伝えている。明治32年の大火で、大半の町家が焼失したが、その後に再建された伝統的な表構えの町家が数多く残り、奥越の小京都として知られている。特に、七間通りは石畳に整備され、大野を代表する町並み景観を見せている。

6 大野市元町 明治後期



国登録文化財

間口5間半で、屋根は登梁^{のぼりばり}で支え、越屋根を持つ。1・2階の格子や袖壁は整った表構えである。下屋庇の上の看板も見ごたえがある。

7 大野市元町 明治後期



明治32年の大火後に再建された、間口9間の大規模な町家である。

大野の町家のほとんどが真壁造であるが、当家は腕木や垂木なども塗籠^{たるき}とした蔵造りの例である。2階正面は黒漆喰塗で、2階窓の内側にも防火用の漆喰塗の扉が付いている。

81 大野市元町 明治後期



七間通りに面する民家。間口は5間で袖壁を持ち、深い軒の出を腕木で支えている。二方にまわした下屋庇には幕板が設けられている。

平成10年の古民家再生工事で、町家の意匠を踏襲した改装が行われた。

8 大野市明倫町 大正期



三番通り沿いに3棟が軒を連ねる伝統的町家のひとつである。

間口5間の町家で、軒の登梁^{のぼりばり}や腕木形式^{うでぎ}の下屋庇、出格子など整った表構えである。

〔勝山市〕

勝山市内に残る伝統的町家は、ほとんどが明治29年の大火後につくられたもので、特に本町通りには、大規模で整った表構えを持つ商家が並んでいる。

9 勝山市沢町 明治初期



「うだつ」を持つ町家の例である。市内に残る勝山大火以前の貴重な例である。

10 勝山市本町 明治後期



大火の直後に建てられた間口 8 間の大規模な町家で、このうち 5 間半を区画して使用している。

軒は、登梁形式で、下屋庇は瓦葺きとし、袖壁は漆喰で塗籠としている。

11 勝山市本町 明治後期 	間口 6 間の大規模な長屋建ての町家である。 2 階は、後世の改造で、袖壁の前面まで張り出した出格子を間口全面に取り付けている。改造されてはいるが、違和感のない表構えとなっている。
12 勝山市沢町 明治中期 	間口、奥行きともに 7 間の規模を持つ、勝山でも大型町家の例である。 ^{のぼりばり}登梁で支えられた深い軒や 2 階の黒漆喰壁、^{のぼりばり}縦格子入りの窓、袖壁や格子など伝統的な表構えがよく備わっている。 前面の格子の内部には、^{しとみど}蔀戸が残されている。
13 勝山市本町 明治後期 	間口 5 間の町家で、^{のぼりばり}登梁で軒を支え、袖壁や銅板葺の下屋庇、幕板など 1 階は改造されているが、整った表構えを見せている。
14 勝山市本町 明治後期 	間口 5 間の町家で、^{のぼりばり}登梁で屋根を支え、2 階は黒漆喰、窓は縦格子で、袖壁を設けている。下屋庇の上に掲げられた看板も景観上大きな役割を果たしている。 1 階は改造されている。

15 勝山市元町 大正期 	広い敷地の中に、通りから奥まって建つが、町家の表構えを持っている民家である。 間口6間、奥行6間半の大規模な民家で、2階の階高も時代を反映して高い。
16 勝山市本町 昭和初期 	間口4間の町家で、登梁のぼりばりで支えられた深い軒や2階の黒漆喰壁、堅格子入りの窓、袖壁や格子など伝統的外観を良く備えている。
17 勝山市本町 昭和初期 	間口7間の大規模な町家で、登梁のぼりばりで支えられた深い軒や2階の黒漆喰壁、堅格子入りの窓、袖壁や格子など伝統的外観を良く備えている。 1階は、入口の2間に現在も上げ下げ式の大戸が使われ、格子の内側にもしよみと蔀戸が残っている。
〔鯖江市〕 市内を南北に貫く旧北陸街道沿いを中心に伝統的町家が見られる。町家は、南側の鯖江市中心部に多く残り、北方の水落、神明地区には、農家型の民家が建ち並んでいる。 鯖江市中心部では、近年の道路拡幅により、多くの伝統的町家が取り壊された。	
18 鯖江市本町 明治後期 	間口5間の町家で、主屋の両側に下屋をつけている。 2階は真壁、黒漆喰塗で、妻面は、白漆喰の塗籠とし、意匠的なアクセントにもなっている。 道路拡張により、伝統的町家がなくなった中で、伝統的形態をよく残している町家である。

〔越前市〕 武生の中心街を南北に通る旧北陸街道は、かつて松並木、中央に表川が流れ、独特の風景を形成していた。この通り沿いには、現在も伝統的町家が軒を連ねて残っている。	
19 越前市天王町 江戸末期 	越前市内でも数少なくなった「うだつ」を持つ切妻造、平入りの商家である。屋根は、^{のぼりばり}登梁で支えられ、^{こしやね}越屋根も残る。 下屋庇は、銅板葺きで幕板がついている。
82 越前市元町 明治初期 	軒は登梁で支え袖壁を持つ。前面は、1・2階とも真壁で、1階前面は、格子戸と出格子で構成され、2階は黒漆喰塗、下屋庇上に小さな板壁を設けている。
20 越前市本町 明治中期 	階高が低い間口4間の「つし2階」の町家で、袖壁を持つ。本屋根の軒は^{のぼりばり}登梁、下屋庇は^{だしげた}出桁で支えている。2階の階高は低く、町家の古い形態をとどめている。
21 越前市京町 大正期 	重厚で伝統的な表構えをもつ越前市の代表的町家のひとつである。^{のぼりばり}登梁の見付は五角形の断面（「^{しょうぎばな}将棋鼻」と呼ぶ）で、銅板で保護している。 2階は黒漆喰塗で、縦連子窓としている。 下屋庇は銅板葺で、幕板があり、表側柱列の内部には、上げ戸が残されている。

22 越前市蓬萊町 大正期 	大正2年の大火後の建物である。本屋根は腕木^{うでぎ}で出桁^{だしげた}を支え、船柵造^{せがい}とする。2階前面は、大きなガラス窓を設けている。両側の袖壁は、白漆喰塗で上部には繰形と小屋根を持つ。
83 越前市蓬萊町 大正期 	平入り切妻造棧瓦葺の民家で、北面は入母屋としている。 起^{むく}りのある屋根を持った重厚な構えの民家で、主屋の左に蔵、右に庭を配する独特の構成をとっている。
84 越前市府中 大正期 	間口5間で屋根は主屋、下屋ともに起^{むく}りを持つ。 2階の軒は腕木^{うでぎ}に出桁^{だしげた}を載せ、船柵造^{せがい}とし、2階前面は、黒漆喰の塗籠としている。
85 越前市国府 昭和初期 	角地に建つため、本屋軒を正面から側面に廻^{せがい}して船柵造とし、銅板葺の下屋庇は隅を屋根・幕板ともに円形としている。大きな出格子とともに調和のとれた表構えとなっている。

〔越前町〕 越前町織田地区の剣神社周辺には、伝統的町家の町並みが残っている。	
23 越前町織田 明治初期 	明治初期に造られた町家を前後に2分して引き離し、門構えと入母屋の式台を付けて、武家住宅風に改装した町家である。 2階は、白漆喰の塗籠仕上げである。
〔南越前町〕 南越前町今庄地区は、旧北陸街道の宿場町の面影を良く残している。旧街道沿いに、南北、約1.5キロにわたって伝統的な表構えを持つ町家が軒を連ねている。	
24 南越前町今庄 江戸後期  町指定文化財	建築年代は、天保年間(1829～44)と推定される。「うだつ」を持ち、壁面は全て土塗りの大壁である。軒裏も塗籠られ、2階は連続する虫籠窓むしこまどになっている。 屋根は、本屋根も下屋庇も赤瓦葺である。
25 南越前町今庄 江戸末期 	これも「うだつ」が見られる町家で、切妻造、さん棧瓦葺、軒は登梁のぼりばり形式である。下屋庇は、板葺きで1階左側にやや粗い出格子を持つ。 右側に門を構え、さらに土蔵が道沿いに続き、主屋とともに伝統的な町なみ景観を形成している。
86 南越前町今庄 江戸末期 	主屋は間口4間で袖壁を持つ。下屋庇は銅板で覆い、腕木を出して支えている。 入り口上に架かる看板にも趣がある。

〔敦賀市〕 敦賀市の市街地は第二次世界大戦時の空襲により多くの伝統的民家が失われたが、敦賀港の繁栄を示す旧大和田銀行本店の周辺には、戦火を免れた伝統的町家が残っている。	
26 敦賀市相生町 江戸末期 	空襲による戦火を逃れた数少ない伝統的町家である。 近年の改修により伝統的な外観がよみがえった。
27 敦賀市相生町 江戸末期 	この町家も空襲による戦火を逃れた町家のひとつである。 1階は改造が見られるが、2階は袖壁の前面まで張り出した出格子を取り付けている。
〔小浜市〕 小浜市には、旧丹後街道沿いを中心に、市街地全域にわたって多くの伝統的町家の町並みが残っている。軒、下屋庇、袖壁といった町家の構成要素は基本的に嶺北の町家と同じだが、三丁まち、西組、中組、津島、遠敷等地区毎に特徴のある景観を呈している。	
28 小浜市遠敷 明治初期 	平入り棧瓦葺きで、下屋ともに桁・腕木^{うでぎ}を塗籠とし、2階は彫りの深い2か所の窓を設けている。1階は真壁で、出格子、ガッターリを設け、両側に真壁の袖壁を設けている。
87 小浜市遠敷 明治初期 	主屋は間口約4.5間で向かって右手に間口約2間の下屋を隣地に向かって葺き下ろしている。主屋の軒、下屋庇ともに腕木構造で、2階は塗籠とし、左側に塗籠の袖壁、右側に真壁の袖壁を持つ。

29 小浜市小浜津島 明治初期 	平入り^{きん}棧瓦葺きの町家で、両脇に妻を見せる土蔵を持っている。本屋根、下屋庇とも腕木構造で、袖壁を持つ。 入口をはさんで、繊細な出格子、平格子を設けている。
30 小浜市小浜清滝 明治中期 	間口は約5間で、屋根は、ゆるい^な起りのある平入り^{きん}棧瓦葺きである。本屋根、下屋庇とも腕木^{うでぎ}構造で、袖壁を設けている。 1階・2階ともに真壁で、出入口の右側には出格子を、左側にはガツタリを備えている。
31 小浜市小浜鹿島 明治初期 	間口6間の平入り^{きん}棧瓦葺きの大規模な町家である。近年、伝統的手法で改修された。 2階には格子が設けられ、1階も出格子・平格子・大戸が設けられている。 下屋庇は、この付近では珍しい板葺である。
88 小浜市遠敷 明治後期 	正面は、1階2階ともに真壁で、主屋の軒、下屋庇ともに腕木構造としている。 下屋庇には「おだれ」を設け、1階も面格子を残している。

32 小浜市小浜飛鳥 大正期 	間口3間の平入りの町家が連続して建つ中の1軒である。 若狭瓦葺きで、前面に繊細な格子を設けており、町並みに調和した外観になっている。
33 小浜市小浜鹿島 大正期 	角地に立つ間口6間の平入り町家である。 屋根の入母屋造は後の改造である。近年、伝統的な手法で改修された。
〔高浜町〕 旧若狭街道に沿った高浜町の中心部には、今も伝統的民家が多く残り、通りに面して平入りの町家が建ち並んでいる。 棧瓦葺の屋根に起りをつけた民家や正面を塗籠とした民家も多く見られる。	
34 高浜町三明 江戸中期 	平入り^{きん}棧瓦葺きで、屋根は起り^{むく}をつけ、袖壁を屋根上まで突出させた「うだつ」を持つ。 2階の軒裏は、腕木に出桁を載せ、船桡造^{せがい}としている。
89 高浜町三明 江戸期 	厨子2階で、2階前面は、養生用の金属板で覆われているが、その下には虫籠窓^{むしこまど}や塗籠の袖壁が残っている。屋根は起り^{むく}がつけられている。

90 高浜町若宮 明治初期 	平入り切妻造り棧瓦葺の大規模な民家である。 2階前面は、外壁と袖壁を塗籠とし、漆喰の装飾が印象的である。屋根は起りを持ち、軒は出桁を腕木で支え、船柵造としている。
91 高浜町宮崎 明治初期 	屋根は起りが付けられ、煙出しを持つ。 軒下は1階・2階ともに垂木・桁・腕木を塗籠とし、虫籠窓、出格子、格子戸など整った町家形式の外観である。 また、白漆喰と黒漆喰のコントラストが美しい。
92 高浜町三明 明治期 	平入り切妻造り棧瓦葺の民家である。 厨子2階で、主屋約6間の大規模な民家である。2階前面は、漆喰塗で、袖壁も塗籠めている。
93 高浜町三明 明治期 	平入り切妻造り棧瓦葺の民家である。 2階は袖壁や船柵造の腕木、垂木まで塗籠、2階窓には土壁の引き戸を設けている。

94 高浜町三明 明治期



「うだつ」を持つ大規模な町家である。

厨子2階で、2階前面は袖壁を含めて漆喰の塗籠とし、1階も出格子、格子戸など伝統的な町家の意匠を良く残している。

35 高浜町事代 明治後期



平入り棧瓦葺きで、2階は、袖壁や船柵造の腕木、垂木まで漆喰で塗籠としている。また、白漆喰と色漆喰の美しいコントラストや漆喰による装飾も特徴的である。

2) 典型的な農家型

〔福井市〕

伝統的農家に瓦葺きが取り入れられるのは、明治以降で、主屋の間口は3～4間を基本とし、妻入り切妻造の形態が主体である。

福井市南部、旧清水町や旧美山町など中山間部では、切妻屋根の妻面を束と化粧貫で格子状に組んだ白壁の農家が美しい農山村景観を形成している。

95 福井市武周町 明治期



36 福井市杉谷町 明治中期



96 福井市殿下町 明治後期



97 福井市武周町 大正期



「つし2階」で、妻面は化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げからなる美しい妻面を見せている。

2階の立ち上がりは低く、妻面は柱とつなぎ梁で組まれ、真壁白漆喰塗の美しい壁面を見せている。

妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗仕上げの美しい壁面を見せている。
前面の下屋に生活空間をとるようになり、左右に「つのや」が張り出している。

98 福井市梅野町 大正期 	妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げからなる美しい壁面を見せている。 前面の下屋に生活空間をとるようになり、「つのや」が張り出している。
99 福井市南西俣 大正期 	妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げからなる美しい壁面を見せている。 前面の下屋に生活空間をとるようになり、「つのや」が張り出している。
37 福井市大谷町 昭和初期 	2階の立ち上がりは低く、破風には懸魚を付けている。2階の側面は、白漆喰塗で塗籠の大壁としている。
100 福井市二つ屋町 昭和初期 	やはり化粧貫と束からなる美しい妻面を持つが、前面の下屋に生活空間をとるようになり、「つのや」が張り出している。 下屋は装飾を施した力板（腕木）で出桁を支える。
38 福井市東大味町 昭和初期 	化粧貫と束からなる美しい妻面を持つが、前面の下屋に生活空間をとるようになり、左右に「つのや」が張り出している。

39 福井市杉谷町 昭和初期 	化粧貫と束からなる美しい妻面を持つが、前面の下屋に生活空間をとるようになり、左右に「つのや」が張り出している。
40 福井市杉谷町 昭和20年以降 	化粧貫と束からなる美しい妻面を保持しながら、主な生活空間を「つのや」部分にとるようになったため、「つのや」の張り出しが大きくなっている。
41 福井市杉谷町 昭和20年以降 	
101 福井市下河北町 昭和20年以降 	主な生活空間を「つのや」部分にとり、「つのや」を張り出している。また、2階の階高が高くなり、従来の「つし」が部屋として使われるようになっている。
42 福井市中荒井町 昭和20年以降 	主な生活空間を「つのや」部分にとり、「つのや」を張り出している。また、2階の階高が高くなり、面積も大規模である。 従来の「つし」が最初から部屋として使われるようになっている。

102 福井市武周町 昭和20年以降 	主な生活空間を「つのや」部分にとり、「つのや」を張り出している。また、2階の階高が高くなり、面積も大規模である。 従来の「つし」が最初から部屋として使われるようになっている。
103 福井市畠中町 昭和20年以降 	
43 福井市下江尻町 昭和20年以降 	2階の階高は高く、「つのや」の張り出しが大きく、面積も大規模である。 入母屋屋根の式台や「つのや」に越屋根が付き、整った表構えを呈している。
〔坂井市〕 旧丸岡町など中山間部には、福井震災に耐えた白壁の農家が美しい伝統的民家が残っている。	
104 坂井市丸岡町山崎三ヶ 昭和20年以降 	妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げである。 前面の下屋に生活空間をとるようになり、「つのや」が張り出している。

〔永平寺町〕 永平寺町の集落には、間口 3～4 間の切妻屋根で、真壁の大きな妻壁を見せ、前面には出の深い下屋庇を設けるものが多い。また、主屋の片側には下屋庇と一体となった「つのや」を介して土蔵が続き、独特の景観を形成している。	
44 永平寺町京膳 明治後期 	1 階の正面の下屋は、装飾を施した力板と腕木^{うでぎ}で出桁^{だしげた}を支え、この地域独特の重厚な造りとなっている。妻面は、束と化粧貫の繊細な意匠となっているが、階高が高い 2 階は、昭和 30 年代に茅葺き屋根から瓦葺に葺き替えの際に改造されたものである。
〔大野市〕 大野市の郊外には、切妻屋根の妻面を束と化粧貫で格子状に組んだ白壁の美しい農家が残り、大野の農村風景を特徴付けている。	
45 大野市不動堂 昭和初期 	四つ目取りの座敷や「オイエ」が広くとられ、大規模な建物となっている。 下屋は 1 間幅程度で四周を取り巻き、前後左右に張り出す「つのや」はない。
〔勝山市〕 勝山市の周辺集落には、平入りまたは妻入りの切妻造棧瓦葺で、周囲に下屋を回す大規模な農家が見られる。 妻面の意匠は妻入り農家の場合と同じであるが、2 階を真壁の漆喰塗としているものが多い。また、正面下屋に式台形式の整った玄関を張り出しているものも多い。	
105 勝山市荒土町 明治後期 	平入り切妻造棧瓦葺の大規模な民家である。周囲に下屋を回し、正面下屋に式台形式の整った入母屋の玄関を張り出している。 勝山市周辺村落に見られる大規模な農家の形式で、一部には、寄棟造や入母屋造のものも見られる。

46 勝山市平泉寺町 昭和20年以降 	平入り切妻造棧瓦葺で、正面下屋に式台形式の整った玄関を張り出している。 主屋を延長した形で「つのや」が取り付いており、「つのや」は越屋根形式となっている。
〔池田町〕 池田町内には、国重要文化財の堀口家住宅をはじめ、茅葺き民家が残る集落や白壁の美しい伝統的民家が点在し、山並みや田園風景ともよく調和した農村風景を形成している。	
112 池田町新保 昭和20年以降 	妻入り切妻造棧瓦葺の民家である。 妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げである。 前面の下屋に生活空間をとるようになり、越屋根形式の「つのや」が張り出している。
〔鯖江市〕 鯖江市の郊外には、切妻造^{きん}棧瓦葺で、前面に下屋を持ち、その上に白漆喰塗で、格子状に組んだ束と貫が織り成す美しい妻壁を見せる農家が見られ、背後の山並みや田園風景ともよく調和した農村風景を形成している。 また、旧北陸街道に沿った、神明地区、立待地区には、町家に混って妻入り切妻造の農家型の民家が建ち並んでいる。これらの家構えは、通り沿いには生垣や板塀を設け、その内側に前庭を持つ家が多く、生垣や前庭の樹木の間に見え隠れする妻壁がよく調和した景観を形成している。	
47 鯖江市寺中町 江戸期 	煙出しを持つ大規模な農家である。 建築年代は古く、玄関の構えなどに建設当時の形態をよく残している。 江戸中期と伝わるが、外観の形状は明治期以降の様子を示しており、後年、茅葺き屋根を瓦葺に葺き替えた際に改造されたものと思われる。

48 鯖江市定次町 明治初期 	蔵造りの民家は、町家に多いが、この建物は数少ない農家の例である。 規模は大きく、両側の土蔵と並んで美しい外観を呈している。
106 鯖江市吉江町 明治中期 	
107 鯖江市西番町 明治中期 	2階の立ち上がりは低く、妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗仕上げからなる美しい壁面を見せている。
49 鯖江市大倉町 大正期 	
108 鯖江市石生谷町 大正期 	妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げで、煙出しとともに美しい妻面を形成している。

50 鯖江市神明町 昭和初期 	上記と同じような妻面の意匠が見られるが、主な生活空間を「つのや」部分にとり、「つのや」の張り出しが大きくなっている。
109 鯖江市別司町 昭和20年以降 	主な生活空間を「つのや」部分にとり、「つのや」を張り出し、ている。また、2階の階高が高くなり、面積も大規模である。 従来の「つし」が最初から部屋として使われるようになっている。
〔越前市〕 越前市の郊外には、切妻造^{きん}棧瓦葺で、前面に下屋を持ち、その上に白漆喰塗で、格子状に組んだ束と貫が織り成す美しい妻壁を見せる農家が見られる。煙出しの越屋根を持つ切妻造と比較的新しい入母屋屋根の家屋が混在しているが、土蔵や長屋門も点在し伝統的な農村風景を形成している。	
51 越前市岩本町 江戸末期 	主屋の妻面は板張りに改修されているが、2階の階高は低く、この地区における古い民家のひとつである。
110 越前市中居町 明治中期 	昭和29年に屋根降しをおこない、茅葺きから瓦屋根に改造した平入り切妻造棧瓦葺の民家である。 2階側壁に茅葺き当時の入母屋屋根の破風を装飾的につけている。

52 越前市中津原町 明治後期 	妻壁の意匠は東立てのみで貫がないシンプルなものである。下屋が四周に取り巻く。
111 越前市南坂下 大正期 	妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗仕上げからなる美しい壁面を見せている。 前面の下屋に生活空間をとるようになり、「つのや」が張り出している。
53 越前市南坂下 昭和20年以降 	四つ目取りの座敷や「オイエ」が広くとられ、大規模な建物となっている。下屋が四周を取り巻く。
54 越前市余田町 昭和20年以降 	主な生活空間を前方の「つのや」部分にとるようになるために、「つのや」の張り出しが大きくなっている。 また、2階の階高も大きくなっている。
55 越前市余田町 昭和20年以降 	2階の階高は高くなり、従来の「つし」であった部分に最初から部屋が設けられている。 主な生活空間を「つのや」部分にとっているために、「つのや」の張り出しが大きい。

〔越前町〕

越前町には、切妻造^{きん}棧瓦葺で、前面に下屋を持ち、その上に白漆喰塗で、格子状に組んだ束と貫が織り成す美しい妻壁を見せる農家が集中して見られる。

背後の山並みや田園風景ともよく調和した農村風景を形成している。

113 越前町大谷寺 江戸末期



妻面は化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗仕上げである。

背の低い煙出しが付き、主屋の棟は笏谷石が使われている。屋根勾配は比較的緩い。以前は、板葺であったなごりとみられる。

56 越前町中 明治中期



2階の階高は低い。

妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げからなる美しい妻面を見せている。

114 越前町下河原 明治中期



屋根降しをおこない、茅葺きから瓦屋根に改造している。

妻面は多段の化粧貫と束・柱で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げである。

115 越前町佐々生 明治中期



妻入り切妻造^{きん}棧瓦葺の民家である。

煙出しを持ち、妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げである。

「つし2階」で、2階の立ち上がりは低い。

116 越前町宝泉寺 明治後期 	妻入り切妻造棧瓦葺の民家である。 煙出しを持ち、妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げである。 「つし2階」で、2階の立ち上がりは低い。
57 越前町檜津 大正期 	昭和初期に屋根降しをおこない、茅葺きから瓦屋根に改造している。 「つのや」に主な生活空間をとるために、前面に「つのや」が張り出している。
117 越前町八田 昭和初期 	妻面は多段の化粧貫と束で格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げである。 前面の下屋に生活空間をとるようになり、越屋根形式の「つのや」が張り出している。
118 越前町平等 昭和20年以降 	煙出しを持ち、整った表構えとなっている。
58 越前町江波 昭和20年以降 	主な生活空間は前方の「つのや」部分にある。住宅自体の面積も大規模で、入母屋屋根の式台や「つのや」に越屋根もあり、整った表構えになっている。

〔小浜市〕

嶺南地域の伝統的農家の妻面は、多段の梁（てんびん梁）と束立てで格子状に組み、白漆喰塗となっている。風上側の妻面は、この上に板張りとしているものが多い。

小浜市の郊外には、このような伝統的形態の農家や鉄板屋根をかぶせた葛屋^{くずや}も見られ、伝統的な農村景観を形成している。

59 小浜市相生 明治初期



嶺南地域の農家は、平入りが多いが、この建物は、妻入りである。

60 小浜市相生 明治後期



嶺北地方と同じく、建設年代が古いものは、2階の階高が低い傾向にある。

119 小浜市木崎 大正期



屋根は起^{むく}りが付けられ、立ち上がりの低い煙出しを持つ。

平入りで、妻面は多段のてんびん梁と束立てで格子状に組まれ、真壁白漆喰塗の仕上げである。

〔高浜町〕

嶺南地域の伝統的農家の妻面は、多段の梁（てんびん梁）と束立てで格子状に組み、白漆喰塗である。風上側の妻面は、この上を板張りとしている例が多いが、2階部分を真壁または大壁で全面を白漆喰塗とした農家もあり、独特の農村景観を形成している。

120 高浜町立石 江戸末期



平入り切妻造棧瓦葺の民家である。
破風には懸魚が付けられ美しい妻面を見せている。

2階は昭和42年に茅葺きから瓦葺きに葺き替えたときに増築されたものである。

121 高浜町日置 大正期



平入り切妻造棧瓦葺の民家である。

屋根は^{むく}起りが付けられ、立ち上がりの低い煙出しを持つ。

122 高浜町東三松 昭和初期



2階の階高は比較的高く、周囲に下屋を回している。

61 高浜町神野 昭和20年以降



主屋の間口4間、桁行7間の大規模な平入り切妻造の農家である。

煙出しを持ち、2階の階高は比較的高い。妻面の梁材は角材加工され破風^{はふ}には懸魚^{けぎょ}が付けられ、均整の取れたデザインとなっている。

3) 茅葺き民家

128 鯖江市水落町 江戸中期



国指定重要文化財

妻入り入母屋造茅葺きの民家である。

正面妻側は大戸口以外は土壁塗籠で、嶺北北部に見られる間取り形式を持っている。

県内では、2番目に古い民家である。

62 越前市余川町 江戸後期



国指定重要文化財

入母屋造茅葺き平屋建てで、南北の「つこのや」は建築当初から付いていたと考えられている。建築時期は、文化5年(1808)頃と推定されるが、現在は明治時代に増改築された状態で復元保存されている。

昭和53年に越前市横市町から現在地に移築された。

131 若狭町武生 昭和20年以降



平入り入母屋造で茅葺き（現在は金属板で覆われている）の民家である。

明治初期の民家（茅葺き）の古材を利用して、昭和30年に茅葺きで改築した建物で、大きな屋根を持ち、周囲に棧瓦葺きの下屋を回している。

63 南越前町板取 江戸末期



64 南越前町板取 明治後期



妻入り入母屋造茅葺きの民家で、入母屋屋根の前面の軒を切り上げた「かぶと造り」の形式を持つ。北陸街道の宿場であった今庄板取地区の特徴的な景観を残している。

65 南越前町板取 江戸末期



66 南越前町板取 明治初期



南越前町には、妻入り入母屋造の茅葺きで、上記のような「かぶと造り」にならない民家も残っている。

4) かぐら建ての民家

67 坂井市三国町北本町 江戸後期



国登録文化財

68 坂井市三国町南本町 江戸末期



69 坂井市三国町神明 江戸末期



70 坂井市三国町北本町 明治初期



国登録文化財

坂井市三国町には、「かぐら建て」とよばれる独特の形をした民家が多数残っている。

「かぐら建て」は、妻入り切妻造の主屋の前面に、片流れ2階建ての前下屋を付け、通りから一見しただけでは、平入りの町家のように見える民家で、奥の妻入りの屋根の先端が前面の平入り屋根よりも高く突き出ているものが多い。

北前船交易によって栄えた三国湊を象徴する建物である。

71 坂井市三国町神明 明治初期



国登録文化財

坂井市三国町には、「かぐら建て」とよばれる独特の形をした民家が多数残っている。

「かぐら建て」は、妻入り切妻造の主屋の前面に、片流れ2階建ての前下屋を付け、通りから一見しただけでは、平入りの町家のように見える民家で、奥の妻入りの屋根の先端が前面の平入り屋根よりも高く突き出ているものが多い。

北前船交易によって栄えた三国湊を象徴する建物である。

5) 妻入りうだつの民家

72 越前市新在家町 江戸中期



73 越前市岩本町 江戸末期



越前市今立地区の定友から大滝にかけて、妻入り民家の前後に「うだつ」を上げた独特の形態の民家が見られる。

規模の大きな民家が多く、正面（妻面）2階中央部に窓を設けている。

74 越前市岩本町 明治後期



6) その他地域固有の形態を持つ民家

126 坂井市三国町神明 江戸末期 	前庭を持つ妻入り切妻造棧瓦葺きの民家である。 主屋は間口4間で、棟を笏谷石とし、棧瓦は赤瓦で、玄関や窓格子など、伝統的な意匠をよく残している。
75 大野市城町 江戸後期 	本屋は桁行8間半、梁行4間半の木造2階、の切妻造棧瓦葺で、南、東、北に下屋を張り出している。建設時期は、文政10年(1827)の火災後から同13年の間である。建設当初は茅葺きの平家建て、主要部分は建設当時のまま良く保存されている。県内における数少ない武家住宅の現存例である。
128 大野市中津川 明治初期 	正面約22m、奥行約11mの大規模な民家で、江戸時代の当地域で見られる間取り形式を持つ。 当初、屋根は茅葺きで、下屋まで葺き下ろしていた。
130 高浜町上車持 江戸末期 	平入り入母屋造茅葺きの民家を、古材を再利用し、間取り、寸法など従前の形態を忠実に再現して改装したものである。 茅葺きの屋根勾配も忠実に再現しているが、屋根下地は板張りに変更し、大屋根を軒先まで葺き下ろしている。

125 福井市大畑町 明治後期 	妻入り入母屋造棧瓦葺の民家であるが背面は、切妻造となっている。 瓦葺の屋根が普及するに従って、切妻造だけでなく入母屋造の民家も造られるようになってくる。2階の立ち上がりは低く、軒先は腕木構造としている。
127 坂井市丸岡町磯辺島 昭和初期 	2階の階高は低いが、入母屋の妻面を真壁とし、柱や貫を見せる初期の妻入り入母屋造民家の例で、屋根は起りがある。
129 越前市大滝町 明治初期 	この地区に多く見られる妻入り切妻造棧瓦葺の町家形式の民家である。 格子戸や出格子など伝統的意匠をよく残している。妻面は、農家風の民家の意匠を持っている。
76 越前市不老町 大正期 	この地区に多く見られる妻入り町家で、主屋は道路から奥まって建ち、道路際に門・塀を備えている。
77 越前市岩本町 昭和20年以降 	2階は高く、玄関周りはこの地区の町家の伝統的意匠を備え、落ち着いた雰囲気を持っている。

(注意事項)

- ・ 認定民家は個人の住宅等で、原則として非公開です。所有者等に迷惑をおかけすることがない様をお願いします。
- ・ 記載されている建設時期は、所有者からの聞き取りによるものです。

5 用語解説

うだつ（卯立・卯建）	妻側の壁を屋根より高く突出して小屋根を付けたもの。
オイエ	民家において大戸口から入った取付きの一室。オエとも呼ばれる。
ガッター	ミセの軒下に柱外側に軸吊されている縁台。普段使わないときは引き上げて収納するようになっている。揚見世・ぱったり床几とも呼ばれる。
かぶと（兜）造り	寄せ棟造りの屋根の妻部分を垂直に切り落として、二階や小屋根に開口部を設けるようにした、養蚕を行なうために発生した造り。
けぎょ 懸魚	建物の妻側において、棟木または桁の端に取り付ける装飾的な線形のある板。
こうがい 筭	板葺の庇の上に設けられる厚板を押さえる横木。
こしやね 越屋根	棟の一部に設けられた開口部の上の小屋根。主として瓦葺屋根に見られるもので、煙出し、換気、採光のためのもの。
しとみど 蔀戸	町家において戸締りのためにはめ込む横戸。上から下に柱間に落とし込まれる場合と、下戸のみを落とし込み、上戸は外方または内側に吊上げて吊金具で留めておく場合とがある。
せがい 船柁造	側柱上部から腕木を出して軒下に、舟の船柁に似た小天井を張ったもの。
そでかべ 袖壁	2階建ての民家において、2階軒下の正面両側に建物から突出して設けられた壁。
だしげた 出桁	腕木・片持ち梁などの先端に渡してある桁。腕木の場合は腕桁とも呼ばれる。
つし（厨子）	民家の屋根裏。草葺・板葺・瓦葺のいかににかかわらず用いられ、窓を持つ場合も持たない場合もある。床は、棧を渡し ^{むしろ} 筵を敷いただけのものから板張りのものまでである。物置、蚕室、使用人の寝間などに用いられた。
つのや（角屋）	家屋の棟と直角に突出した別屋。
でごうし 出格子	柱通りより外方に突出して造られた格子。
のぼりばり 登梁	木造の小屋組みにおいて傾斜して架けられた梁。通常は、屋根裏の空間を広くとるため一端を桁に、他端を地棟に架ける。
はふ 破風	屋根の妻側についている合掌形の装飾板。また、その破風板のついているところ。
まくいた 幕板	町家の正面において、軒先から吊束を下げ、横框を渡し板張りとしたもの。オダレ、幕架けとも呼ばれる。
むく 起り	上方に凸形に湾曲している曲線または曲面。
むしこまど 虫籠窓	町家のつし二階正面窓に設けられている塗り格子の窓。

参考資料：建築大辞典（彰国社）

屋根の形式

